

# 「明るい社会の実現」

新鶴中学校 三年 一条 瑠夏

私の理想の男女平等の姿は、互いが互いを尊重し合い、共に仲良く行動できることだと思います。

男女差別が問題になっていて、私自身も学校で生活する中でそれを感じることはありません。

少し前に、クラスで通知表が渡ったときに活動記録として受賞された記録がのせられていました。先生は、受賞の数が私がクラスで一番多かったと教えてくださり、それを聞いて私はとても嬉しく思いました。しかし、一部の男子はそれを聞いて女子だからできたという発言をしていました。軽率な言葉だったかも知れないけれど、私は少し嫌な思いになりました。それは女子が真面目であるからという勝手なイメージがあるだけです。たとえ男子であっても、努力をすればできる結果です。それを、女子であるからという理由で決めつけてしまっていました。私は様々なところで努力し得た結果を、そのような理由で決めつけられてしまったことが、とてもショックでした。けれど実際に、クラスでは女子の方が落ち着きがあって、真面目なイメージがあるのは理解ができました。

家においても、男女で違いがあることを感じられます。母に家事の手伝いを頼まれることがあります。私と姉は手伝いを頼まれるけれど、兄は頼まれることがほとんどないです。手伝いをしなくても許されるのは、男だからというイメージがあるからなのかなと思いました。けれど少しは手伝ってほしいと思っています。

男性が優勢なときもあれば、女性を敬うことを必要とされるときがあり、男女の間に壁ができることがあります。

私が思う男女平等のあるべき姿は、それぞれが互いを敬い、理解し合った上で差別をなくすことだと思います。そのために、異性としてだけでなく、それぞれ人として接することが重要だと思います。また、性別に縛られず、自分の興味や個性をいかして、それぞれの人が生きやすい世の中になってほしいです。

いつかはみんなが平等でいられる明るい社会になってほしいなと思いました。